

令和7年度 砺波市総合計画審議会 議事録（概要）

【日時】 令和8年3月13日（金） 13時30分～15時

【会場】 砺波市役所 3階 大ホール



1 開会・市長挨拶

第2次砺波市総合計画は約10年間の計画として進めてきたが、現在は最終年度を迎えており、次年度予算はその総仕上げとなるものとして編成している。あわせてKPIの検証を行いながら、第3次砺波市総合計画の策定に向けた準備を進めていく。

新たな計画の期間は令和9年からの10年間となる。具体的な施策を細かく示すというよりも、砺波市としてどのような方向でまちづくりを進めていくのかという理念や基本的な考え方を示す計画としたい考えである。

人口減少や少子化対策などの重要課題に引き続き取り組むとともに、市民アンケートやKPIの検証結果を踏まえながら第3次砺波市総合計画の策定を進めていく。委員の皆様には、それぞれの立場から、客観的な考えを含め、ご意見ご提案いただきたい。

2 会長挨拶

第2次砺波市総合計画は令和8年度で最終年度を迎えるため、本審議会ではこれまでの施策がどのように実施され、成果が出ているのかを確認していくことが重要である。総合計画は市の最上位計画であり、「選ばれるまち砺波」という将来像の実現に向け、市民が満足して暮らせるまちづくりが進んできたかを検証する必要がある。

委員の皆様には、居住者や勤務者としての実感に基づき、忖度のない率直な意見をいただきたい。また、第3次総合計画の検討も始まることから、その内容についても積極的な意見をお願いしたい。

3 会長選出

事務局から「大西 宏治 富山大学教授」を選任。→異議なし

4 協議事項

(1) 第2次後期計画におけるKPI（数値目標）の進捗状況について

◆事務局説明

資料2のとおり

◆質疑応答

○委員：学童保育について、現在は小学3年生までが中心だが、共働き世帯が多いため、4～6年生の受け入れ枠を広げてほしいという声が多い。受け入れ側の負担もあるかと思うが、今後の対応をお願いしたい。

●事務局：一番の課題は、支援員の確保である。支援員が集まらず、高学年の受け入れを断念せざるを得ない地区があるのが現状。民間活用や支援員確保の手立てを考えながら、一歩ずつ進めていきたいと考えている。

○委員：資料2の63番のタマネギ出荷量に関連して、タマネギ技術者協議会などで県やJAと連携し、タマネギに限らず他の野菜も含めた高収益な農産物への支援や予算付けを、ぜひ市の予算編成でも考慮していただきたい。

●事務局：タマネギは17年ほど前から土づくりから支援してきた。次年度からも園芸作物等の収益強化事業として、人参やタマネギに続く特産品の開発、生産基盤の強化に引き続き力を入れていきたいと考えている。

○委員：資料2の15番の「地域アンテナ隊」とは具体的にどのような活動か。

●事務局：各自治振興会の会議に市の職員が出向き、市の情報発信をしたり、逆に地域の困りごとや課題を直接キャッチして、市と地域の連携を深めるための活動である。

○委員：資料2の89番のふるさと納税について、実績がかなり伸びているが、どのような返礼品が人気で、どういったきっかけで選ばれているのか。

●事務局：砺波の美味しい水が非常に人気で、他にも地酒、大門素麺などが選ばれている。最近は砺波に来て体験できる特別なプランなども用意しており、SNSでのPRや各種機会を通じて寄附を呼びかけている。

(2) 第3次砺波市総合計画の概要について

(3) 第3次計画策定に向けた市民アンケートの結果について

◆事務局説明 ※(2)(3)は一括して説明

(2) …資料3、(3) …資料4 のとおり

◆質疑応答

○委員：資料4の11pについて、戦略的な考え方として、すでに満足度が高い分野をさらに伸ばすのか、それとも満足度が低い「課題」と思われる部分に予算を投じるのか。どちらのスタンスで考えているか。

●事務局：基本的には両方だが、行政としては大きな穴が開いている部分は埋めていかなければならない。先ほど質問があった学童保育は、明らかにニーズがありながら応えきれていない弱い点で、改善が必要。一方で、砺波の魅力である利便性や自然環境などは、さらに磨きをかけて選ばれる理由にしていきたい。

○委員：アンケート結果資料4の13pを見ると、「余暇を楽しめる場所が少ない」という声が多い。地域でも子どもが気軽に遊べる場所が少ないと感じている。また、地域では結婚していない男女が多く、それが子どもの減少や学校の児童数減少にもつながっている。対策を強化してほしい。

●事務局：余暇施設については、若い世代が求める内容の把握が難しい面もあるが、道の駅庄川など利用が伸びている施設もある。大規模施設の整備は費用面の課題もあるため、意見を聞きながら検討するとともに、高岡市や富山市など近隣施設との広域的な連携も考えていきたい。

結婚支援については、県や市町村と連携し、本市では結婚を希望する男女の登録制度（現在約50名）を設け、希望に合う相手の紹介や婚活イベント、親からの相談受付などを行っている。今年度は2組の結婚につながった。ただし近年は「婚活」という言葉自体を避ける傾向もあるため、今後はより気軽に参加できる形の交流機会づくりをより良くなるよう検討したい。

○委員：不登校や引きこもり、一度働いたがうまくいかなかった人、外国籍の人など、さまざまな背景を持つ人も地域の一員として関われる環境づくりのために、子育て、障害者、産業の分野を超えた横断的な連携が必要。砺波市が多様性を認め合う温かいまちになることを望む。

●事務局：就労の分野では、商工団体や労働団体、経済団体と意見交換する場を設けている。本人への支援だけでなく、企業側にもそうした視点を持ってもらうことが重要であり、働きかけを行っている。実際に障害のある方を雇用する企業も徐々に増えている。農業の分野では、「農福連携」として、農業の現場と福祉を繋ぐというような取り組みも始めている。今後も関係団体と連携しながら進めていきたい。

○委員：インバウンドの増加や外国人労働者の増加が全国的に進んでいる中で、現行計画を見る限り、外国人の受け入れや誘客に関する具体的な施策がやや弱いのではないかと感じる。特に事業所では人手不足などの課題もあり、外国人材への関心や期待も高い。市として、外国人の誘客や雇用についてどのように考え、今後どのように対応していくのか聞きたい。

●事務局：インバウンドについては全国的に需要が高まっており、砺波市でも庄川遊覧船などで外国人観光客、特に台湾からの観光客の利用が増えており、誘客の成果が出てきている。市としても外国人観光客の誘客は重要なターゲットの一つと考えている。現行計画では大きな独立項目としては示していないが、各施策の視点に外国人誘客の考え方は盛り込んでいる。また、外国人の就労・雇用についても、市内事業所と連携して取り組んでいく。

○委員：各部署で溜めているデータをAIなども活用して連携させ、市政に生かす考えはあるか。また、教育現場でのICT活用は数値上は100%達成しており、今後は「量」ではなく、生成AIをどう使いこなすか、個別最適化学習をどう進めるかなど、「質」を高めるていくことが重要。

●事務局：市役所内部ではガバメントクラウドへの移行が進んでおり、システム標準化による行政間連携や高度化は進む見込み。ただし、個別分野でAIをどのように活用するかは今後の課題であり研究していきたい。

生成AIについては他市町村よりも早い令和6年度から、まず教員が適切に使えるよう取り組みを進めており、子どもたちにも正しい使い方を学ばせている。

○委員：金融機関のデータでは、砺波市の預金は5年間で約350億円増加している一方、貸出金はほぼ横ばいで、預貸率は約32%と地方銀行平均より大幅に低い。市民の満足度は高いが、企業の投資機会が少ない可能性がある。産業が振興すれば、就業人口が増え、消費も増えてまちが活性化する。投資を促す施策をお願いしたい。

○委員：文化協会として、子どもたちが砺波は楽しいまち、住み続けたいと思えるように、図書館や文化会館で若者が参加できるイベントを増やしたいと考えている。市からも一層の支援をいただきたい。また、「こどもおーる」について、市外利用者もいると聞いている。もっとPRし活用が広がるとよいと思う。一方で、中学生など年齢が少し上の子どもが使える面積が広がれば、満足度向上にもつながるのではないかと。

○委員：(会長コメント) 私自身の仕事のことで恐縮だが、大学生が地域のイベントに関わる際、参加するだけでなく、「作る側・運営する側」として関わったものは満足度が高い傾向がある。大学のある富山市では大学生がまちづくり活動に関わる仕組みがあり、砺波市でもそのような仕組みがあると、若者の生活満足度を上げるのに効果的だと考える。

○委員：資料4の11pを見ると、商工業・産業分野の満足度が低く、「若者が働ける場、働きやすい職場を増やすこと」が重要な課題だと感じている。最近、家庭生活を重視して短時間勤務を希望する人も増えており、企業側も雇用面で苦労している。学童の充実や、企業のDXを推進するような環境があれば、若者にとって魅力ある働きやすい職場になるのではないか。

●事務局：市内には若者にとって魅力ある企業も多いが、その魅力の発信方法に工夫が必要だと考えている。リクルートキャリアサミットなど、若い社員が若者に向けて発信する取り組みも行っている。動画作成支援なども含め、企業の魅力や働きやすさを発信する取り組みを強化していきたい。

○委員：人口減少が大きな課題であり、砺波市は現在社会増で人口を維持しているものの、子どもの数は増えていない。結婚後に一度市外に出てから実家近くに戻る人も多いため、近居支援制度の周知を強めてもよいのではないか。また、空き家が増えているが、地区の空き家コーディネーターの活動状況や、移住者とのマッチングの状況を知りたい。

●事務局：空き家は確かに増えている。解消に向けて地区のコーディネーターや振興会の協力を得ながら取り組んでいる。空き家バンクへの登録も進めており、入居者への助成制度などを活用しながら解消を図っていきたい。

○委員：南砺～金沢線のバス路線が道の駅庄川を経て、庄川峡の遊覧船乗り場まで延長されれば、観光面で非常に効果があると考えます。東京方面からは北陸新幹線で金沢まで来て観光し、その後バスで砺波・庄川・井波方面へ回るルートができれば、観光動線として魅力が高まる。最近、外国人観光客も増え、遊覧船方面へ向かうバスも満員になる時間帯がある。行政区域の制約などはあると思うが、前向きに取り組んでほしい。

●事務局：以前運行していた金沢～砺波線については、運転手不足など交通事業者の経営状況も厳しく、撤退に至った経緯がある。ただ、庄川遊覧船方面へのバス利用が増えている状況は市としても認識しており、広域連携にはもちろん課題はあるが、利用状況を交通事業者に伝え協議していきたい。

5 会長発言

協議事項（１）について、令和６年度の実績を含め概ね内容は理解された。設定自体に大きな問題はないが、まだ取り組むべき課題が残っているとの認識が共有された。特に子どもの放課後の過ごし方（学童保育）については、市民からのニーズもあることから、市としてさらなる充実に取り組む余地がある。

協議事項（２）について、第３次砺波市総合計画の進め方やスケジュールについては概ね了承された。

協議事項（３）について、市民アンケートの結果を踏まえ、「選ばれる砺波」となるためには、若者が砺波で暮らす満足度を高めることが重要との意見が多く出された。働く場所だけでなく、働き方まで含めた環境づくりや、今後の多様性社会を意識したインクルーシブな取り組みが必要となる。さらに、人口減少が進む中で、砺波市出身者が戻ってくるような環境づくりを進めることが重要との意見もあった。

市は今回出された意見を踏まえて、第３次総合計画の策定に取り組んでいくことが求められる。

6 閉会・市長発言

本日の議論では、インクルーシブな社会づくりや若者対策など、大きな方向性について多くの意見が出された。特に若者については価値観や状況が多様であり、一つの施策だけで対応するのは難しい課題であると認識している。

また、人口４万人規模の都市として、すべての機能を市内に持つ必要があるのかという視点も重要であり、金沢や富山など周辺都市との広域的な関係を活かしながらまちづくりを考えることも大切である。

市民満足度が一定程度高いことはありがたいことであり、強みをさらに伸ばしていく一方で、弱い部分については改善を図っていく必要がある。今後、今回いただいた意見も踏まえながら、第３次総合計画の内容をしっかりと検討していきたい。引き続き協力をお願いしたい。